

42. 熊本県阿蘇市

対象地域	熊本県阿蘇市エリア			
申請主体	阿蘇市			
計画名	阿蘇カルデラで過ごす持続可能な分散型受入れ環境モデル実装計画			
観光客データ		平成31年	令和5年	令和6年
	入込観光客数(千人)	4,650	6,506	6,887
	- 国内	4,022	5,764	6,008
	- 訪日外国人旅行者	628	742	879
地域の特徴・観光資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園、ユネスコ世界ジオパーク等の自然と文化 ・ 噴煙を上げる活火山と世界最大級のカルデラ ・ 千年以上の昔から人々が自然と共存共生してきたサステナブルな日本最大の草原「千年の草原」 ・ 中岳火口が御神体の阿蘇神社や固有の農耕祭事 ・ 市内に熊本・大分を結ぶJR豊肥本線の駅が8 駅立地 			
協議体制	協議の場			
	阿蘇市オーバーツーリズム対策協議会 2020年7月より阿蘇のサステナブルな観光地域づくりに取り組んでいる阿蘇カルデラツーリズム推進協議会が、関係者との協議の場として機能			
	参加者			
協議体制	行政機関等	事業者		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿蘇市 ・ 熊本県 ・ 環境省 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光協会 ・ 商工会 ・ 観光事業者など 		
	住民関係者			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿蘇門前町商店街振興協会 ・ 阿蘇山上職域防災防犯協会 ・ 内牧温泉街繁栄会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 坊中商店街名店会 ・ 阿蘇の未来を創る会など 		

エリアマップ





ASO田園空間博物館 阿蘇カルデラ (大観峰) 草原のあか牛







草千里ヶ浜 中岳火口 阿蘇神社門前町商店街

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1.	<p>駐車場待ち列による道路渋滞</p> <ul style="list-style-type: none"> 大観峰など人気の5大観光スポットやJR阿蘇駅、人気のあか牛メニュー提供店に人や車が集中し、混雑や交通渋滞が発生。一方で市内の他のJR駅では駅からの二次交通に限られており、車利用以外の移動手段の検討が必要。 	観光客
2.	<p>増加する観光客の受入れ負担の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 日帰り観光客が多く地域にお金は落ちない一方、駐車場の混雑やトイレの許容オーバーなど、地域における観光客の受入れ負担が増え続けている。 	観光客 地域経済
3.	<p>マナー違反</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅行者の多くは「千年の草原」などのストーリーに触れる機会の少ない通過型。草原への無断立ち入りや放牧牛・馬に触れるなどマナー違反も発生。 	地域資源

1 草千里付近の渋滞



阿蘇山上エリアに来訪者が集中し慢性的に渋滞・混雑が生じている。山上への唯一の道路に駐車場入場待ちを起因とする交通渋滞が発生。

2 地域の負担



観光客が増加している門前町商店街において、既存トイレの浄化槽処理能力が超え、商店街で悪臭を放つ状況

3 マナー違反



阿蘇の草原は、野焼き、採草、放牧といった人の活動によって維持されている「半自然草原」草原への無断での立ち入りや放牧されている牛馬への接触といったマナー違反が一部で発生

主な背景・要因

1. **日中に深刻な交通渋滞や混雑が発生**
 - ・ 起伏が大きく複雑な地形のため、新設道路を整備することが難しく、観光スポットまでは基本的に一本道となっている
 - ・ 個人旅行が主流となり、マイカー・レンタカーでのドライブが増加したことで渋滞が悪化している

2. **観光スポット・観光スタイルが限定的**
 - ・ 阿蘇市には年間688万人もの観光客が訪れるが、大観峰や草千里など市内5大観光地に集中
 - ・ 草原を見て帰る物見遊山の観光スタイルが定着し、地域にお金が落ちにくい状態

3. **阿蘇の資源保全への理解不足**
 - ・ 観光客急増とともに、草原への無断立入りなど、阿蘇が大切にしてきた資源を理解していない観光客の増加が懸念

1. 観光スポットまでの一本道



起伏が大きく複雑な地形のため、道路が一車線であり、混雑しやすい

2. 観光スポットが限定的



J R阿蘇駅前で草千里・阿蘇山行きバスを待つ観光客の列



観光客で混雑する阿蘇神社楼門

3. 阿蘇の資源保全への理解不足



無断立入りにより踏み荒らされた草原

4. 対策の概要

目指す姿	自然、地域、旅行者の「三方よし」の循環モデルによる地域経済循環を市内全域で展開
KGI	指標A：住民の阿蘇市観光に対する理解度 指標B：観光客の阿蘇市観光に対する満足度
	目標値(令和9年度)：A:90%、B:93% 実績値(令和6年度)：A:80.0%、B:89.7%

- 阿蘇の五大観光地に集中する観光客を分散させること及び、コンテンツを造成することで五大観光地以外での滞在時間を延長させることを目的として実施します。
- 観光客が阿蘇カルデラの自然と歴史・文化のストーリーに共感してもらい、適切な対価を支払ってもらえる受入れ環境の実現に取り組みます。

■ 補助事業の実施概要

受入環境の整備・増強	
① 阿蘇神社第3駐車場の拡張と上質化	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が満車状態が続くことで周辺の渋滞・住民への悪影響が生じているため、天候に関係ない安定的な駐車場の運用と周辺道路の渋滞を緩和を目的に、駐車場の拡張と舗装工事を施行を実施
② 商店街への公衆トイレ整備による環境整備の強化	<ul style="list-style-type: none"> トイレの規模が小さく浄化槽の能力を超える状態となっており悪臭が生じている においを含めた環境対策と利用者の混雑緩和を図ることを目的に新たな公衆トイレの整備を実施
③ AIカメラを用いた混雑状況の把握と情報発信及びGPSデータを用いた人流分析	<ul style="list-style-type: none"> 施設来訪客が集中し、待機車両等の影響により交通渋滞や事故発生のリスクが増加 需要の分散・平準化のため、駐車場及び館内の混雑状況を発信及び人流情報の活用を実施
④ はな阿蘇美の遊休施設等を活用した体験コンテンツ創出	<ul style="list-style-type: none"> 阿蘇の五大観光地に観光客が集中及び通過型観光が主であるため、地域にお金が落ちていない 滞在時間の延長と雨でも観光ができるよう、体験型観光コンテンツの造成を実施



地域全体の観光地域づくりに関わる事業	
⑤ JR豊肥本線各駅周辺を起点とした地域住民向けワークショップの開催	<ul style="list-style-type: none"> 阿蘇市の住民がオーバーツーリズムにより、観光客受入負担が生じている 地域振興と自然環境・農業環境保全・活用を目指した観光まちづくりをワークショップ形式で推進
⑥ 地域住民のサステナブル体験会実施と意見交換会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 阿蘇市の住民がオーバーツーリズムにより、観光客受入負担が生じている 地域住民・事業者等が阿蘇の高付加価値なアクティビティを体感し、自らの言葉で説明できるようにガイドとして活躍してもらえるよう、コンテンツの体験・意見交換を実施

KGI

指標A：住民の阿蘇市観光に対する理解度
 指標B：観光客の阿蘇市観光に対する満足度

測定手法：

- ・ A：地域住民向けアンケート（令和10年2月）
- ・ B：観光客向けアンケート（令和10年2月）

現状値：

- ・ A：80.0%（令和6年度）
- ・ B：89.7%（令和6年度）

目標値：

- ・ A：90%（令和8年度）
- ・ B：93%（令和8年度）

- ・ 大観峰など人気の5大観光スポットやJR阿蘇駅、人気のあか牛メニュー提供店に人や車が集中し、混雑や交通渋滞が発生。
- ・ 日帰り観光客が多く地域にお金は落ちない一方、駐車場の混雑やトイレの許容オーバーなど、地域における観光客の受け入れ負担が増え続けている。
- ・ 草原への無断立ち入りや放牧牛・馬に触れるなどマナー違反も発生。



阿蘇神社第3駐車場の拡張と上質化

KPI：（駐車場整備・渋滞解消による）
 地域住民の観光客に対する受入意向度
 令和7年度 70%以上
 令和9年度 80%以上

商店街への公衆トイレ整備による
 環境整備の強化

KPI：商店街の事業者の悪臭解消など
 トイレの清潔性についての満足度
 令和7年度 70%以上
 令和9年度 80%以上

AIカメラを用いた混雑状況の把握と
 情報発信及びGPSデータを用いた
 人流分析

KPI：観光客が駐車スペース満空情報を
 把握し行動変容（訪れる時間・駐車場所
 の変更等）した人の割合
 令和7年度 55%以上
 令和9年度 65%以上

はな阿蘇美の遊休施設等を活用した
 体験コンテンツ創出

KPI：体験コンテンツの満足度
 令和7年度 70%以上
 令和9年度 80%以上

JR豊肥本線各駅周辺を起点とした
 地域住民向けワークショップの開催

KPI：ワークショップ参加者数
 令和7年度 200人
 令和8年度 300人

地域住民のサステナブル体験会実施と
 意見交換会の開催

KPI：地元アクティビティの紹介意向
 令和7年度 85%
 令和9年度 90%



受入環境の整備・増強

補助事業④	はな阿蘇美の遊休施設等を活用した体験コンテンツ創出		
事業目的	遊休施設の再整備を通じ雨天時対応可能な「サステナブルな阿蘇」体験コンテンツの創出		
実施主体	有限会社 阿部牧場	実施期間	令和7年7月～令和8年2月
KPI	指標：体験コンテンツの満足度 ・ 目標値①：70%以上（令和7年度） 目標値②：80%以上（令和9年度） ・ 実績値：89%（事業完了前）		

【背景・課題】

- 阿蘇の五大観光地に観光客が集中及び通貨型観光が主であるため、地域にお金が落ちていない。
- 阿蘇地域全体で屋外での体験メニューは数が多いが、施設が必要な雨天時の体験メニューが少ない。

【事業内容】

- 滞在時間の延長と雨でも観光ができるよう、体験型観光コンテンツの造成を実施。
- 未利用資源と遊休施設を活用したサステナブルな阿蘇体験を実施し、阿蘇地域の周遊性を図ることで観光スポットの混雑緩和に繋げる。

【推進ポイント】

- 事業を行う遊休施設は、熊本地震時の損傷・床面の不備・導入路の未整備などがあり、7-9月に環境整備の工事を行う。
- 廃棄しているビンやホエーなどを活用したクラフト体験・モノ作り体験ができるサステナブルな阿蘇らしい体験を8月に事業者とメニュー化する。
- 100名規模までの体験を想定し、インカム・スピーカー・大型モニターなどを導入し、少人数オペレーションでの事業実証を行う。
- 最終的には実装を想定しているが、本格的な実装に入る前に10-12月の期間で実証を実施。課題の抽出や検証を行い、クラフト体験事業者との間で実装に向けた具体的運用方法を決定する。



体験実証の様子



体験メニュー（キャンドルづくり）

補助事業④

はな阿蘇美の遊休施設等を活用した体験コンテンツ創出

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 体験コンテンツの満足度

令和7年度に掲げた目標値

- 目標値①：70%以上（令和7年度）
- 目標値②：80%以上（令和9年度）

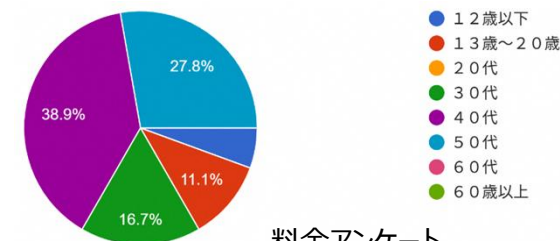
事業の成果/目標の検証結果

- 実績値：満足度89%（令和8年1月）

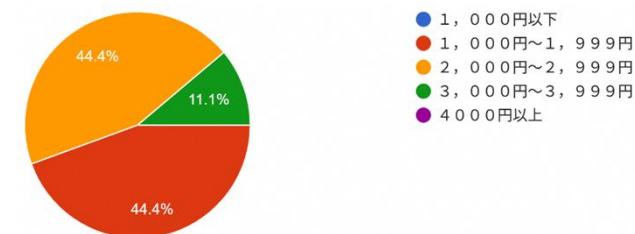
成果の詳細

- 子供から大人まで多く参加（18名）いただき、さらには海外の参加者（2名）もあり、幅広く意見をいただけた。
- 満足度が目標値よりも高く、事業化の目安がたった。
- 料金アンケートを実施し、事業化できる料金単価の指標となった。

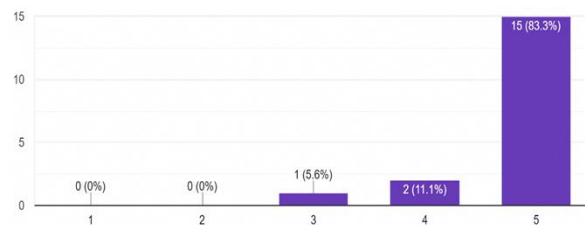
参加者の内訳



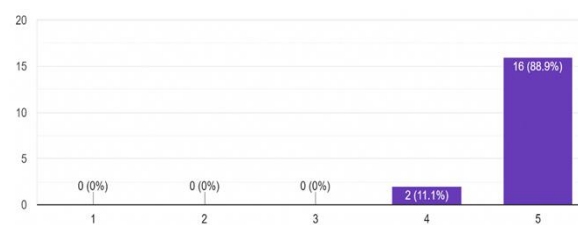
料金アンケート



おすすめ度



満足度



令和7年度事業を踏まえた継続課題

体験フローの一部見直しと安全対策の徹底

- キャンドルづくりの体験実証で、ロウが固まるまで30分程度の時間が必要のため、体験フローの見直しが一部必要。
- ビンが割れたり、切り口が鋭利だったりして危険なところがあるため、安全対策を取る必要がある。

令和8年度以降の方針

体験メニューの拡大と情報発信による収益化の向上

- 本事業によって造成した体験メニューの拡大（ツアー販売、店舗販売）により、事業の収益化を目指す。
- 本事業によって造成した体験メニューを、自社サイトおよびSNS発信を通じて情報発信する。

受入環境の整備・増強

補助事業⑤	JR豊肥本線各駅周辺を起点とした地域住民向けワークショップの開催		
事業目的	地域振興と自然環境・農業環境保全・活用を目指した観光まちづくりをワークショップ形式で推進		
実施主体	阿蘇市観光協会	実施期間	令和7年7月～令和8年2月

【背景・課題】

阿蘇市の住民がオーバーツーリズムにより、観光客の受入負担が生じている。令和6年度までの取組により、農業振興、環境保全と結びついた阿蘇の観光スタイルの方向性の共有ができる人材（個人・団体）と具体的な取組メニュー案が上がっており、実効性のある受入れ体制が見込まれる。

【事業内容】

地域振興と自然環境・農業環境保全・活用を目指した観光まちづくりをワークショップ形式で推進。「阿蘇の自然・農業環境保全」と「観光・産業振興」を両立させることで地域課題（産業振興、移住・定住促進）解決に取り組むことを目指し、JR駅を起点とした各エリア内の特徴に合わせた観光スタイルを共有し、受入れ体制づくりを行うために以下のステップで、地域住民、関係者を交えた住民ワークショップを開催。情報収集、体制構築を行う。

- ・ 地域の関係者による協議の場／ワークショップの設置
- ・ ワークショップの開催（2回）
- ・ テーマ別ワークショップの開催
- ・ 成果のとりまとめと情報及び活用手法の共有

【推進ポイント】

対象とするエリアでは、観光まちづくり計画を実施してきた。計画に携わった人材や出されたアイデアを有効に活用することで、来訪者を各エリアに分散させ、阿蘇での滞在時間を増やすための連携を生み出すための仕組みづくりを行い、実行可能な受入れ体制を整えていく。

住民ワークショップは、地域で活動されている方々と観光事業に携わっている方々が一緒に考え、アイデアを発展させていく場として開催し、阿蘇駅に集中し、火山観光を主な目的としている外国人旅行者を各エリアに分散させ回遊を促すこと、阿蘇に宿泊する目的となる地域の魅力を発信することをテーマに阿蘇での滞在時間を増やすためのプログラムづくり、連携の仕組みづくり、実行可能な受入れ体制づくりについての検討を行う。



全体ワークショップ



テーマ別ワークショップ

補助事業⑤

JR豊肥本線各駅周辺を起点とした地域住民向けワークショップの開催

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名

住民ワークショップへの参加者数

令和7年度に掲げた目標値

- 目標値①：200人（令和7年度）
- 目標値②：300人（令和9年度）

事業の成果/目標の検証結果

- 実績値：住民ワークショップへの参加者数 130人（令和8年2月）
- 本事業で様々な可能性を見出すに至り、実現性の高い連携に基づく商品プログラムが造成できた。

成果の詳細

- 対象エリアは有名観光スポットを有するエリアではないため、これまで観光面での取り組みや事業者間の連携が少ないエリアであったが、本事業で様々な可能性を見出すに至り、実現性の高い連携に基づく商品プログラムが造成できた。
- 地域全体で保全していく対象である「草原」という資源を長年維持してきた管理団体（地域住民）と、その姿勢を尊重し利益を還元しようとする観光事業者とが手を組むことができた。これにより、草原の維持・保全活動についての地元意識醸成のための足掛かりができた。



第1回全体ワークショップ



エリアフィールド調査



プログラムを想定した体験会

令和7年度事業を踏まえた継続課題

プログラムを実施するための仕組みや体制の検討

- 従来、観光事業者が少ないエリアであるため、地域内での観光受入体制確立のための理解を得ていくための取り組みが急務である。
- 多数の参加者を想定していないプログラムのため、年間の受入人数に限られ、その宣伝や体験談の拡散力が弱い。そのため、地道な広報や顧客満足度向上策が必要である。

令和8年度以降の方針

観光客の分散・回遊、長期滞在を促すプログラムの開発・展開

- 本事業において検討したプログラムを実施段階に進めていくための内容の再検討（料金設定、実施時期など）を継続して進めていく。
- 対象とするユーザー向けの情報発信や体験メニューの設定検討のために試行事業の実施やモニターツアーの実施等に段階的に取り組んでいく。

受入環境の整備・増強

補助事業⑥	地域住民のサステナブル体験会実施と意見交換会の開催		
事業目的	地域住民・事業者等が阿蘇の高付加価値なアクティビティを体感し、自らの言葉で説明できるようにする。		
実施主体	阿蘇カルデラツーリズム推進協議会	実施期間	令和7年7月～令和8年2月

【背景・課題】

阿蘇市の住民がオーバーツーリズムにより、観光客の受入負担が生じている。

【事業内容】

地域住民・事業者等が阿蘇の高付加価値なアクティビティを体感し、自らの言葉で説明できるようにガイドとして活躍してもらえよう、コンテンツの体験・意見交換を実施。

- ・ 観光地域づくり研修会（座学）開催：国内外の最新事例等をもとに、持続可能な観光について解説
- ・ 持続可能なアクティビティ体験会の開催
- ・ 「千年の草原」E-MTBライド
- ・ 「千年の草原」ホースライド
- ・ 「千年の草原」トレッキング
- ・ 手野集落散策
- ・ 体験会参加者に対するアンケート調査の実施
- ・ 観光地域づくり研修会（座学）開催

【推進ポイント】

来訪者に高く評価いただいている阿蘇市の滞在コンテンツを、広く市内の観光事業関係者等に実際に体験してもらい、その魅力を五感で感じてもらうことで、「自分ごと」として阿蘇市の魅力を捉え、おもてなしや観光地域づくりに取り組む機運を醸成する。

併せて、双方向の観光地域づくりについての意見交換会を開催し、「住民・来訪者・環境」の三方良しの取組みを推進する。



草原で実施する
アクティビティの住民体験会
(E-MTBライド)



草原で実施する
アクティビティの住民体験会
(ホースライド)

補助事業⑥

地域住民のサステナブル体験会実施と意見交換会の開催

令和7年度事業の目標 (KPI)

指標名 地元アクティビティの紹介意向

令和7年度に掲げた目標値

- 目標値①：85%（令和7年度）
- 目標値②：90%（令和9年度）

事業の成果/目標の検証結果

- 実績値：75%
（アンケートの10段階（1-10）評価中、「10-9」の割合）

成果の詳細

- 地域住民や地元事業者等に阿蘇の高付加価値なアクティビティを体験してもらうことで、自分ごととして情報発信できる機会ができた。
- アンケート実施により、阿蘇市内のオーバーツーリズムの問題点の洗い出しができた。

【アクティビティ体験会を活用して、5大スポットに集中する旅行者を分散させるためのアイデア例】

今回体験いただいたアクティビティを活用し、オーバーツーリズムの対策の一つとして、阿蘇山上・草千里や大観峰等に集中する旅行者を分散させるためのアイデアがありましたら、お答え下さい。（自由回答）

体験型事業。

朝や夜の敷策など普段歩かない時間帯に行く。特に洗滞が懸念される時間帯はその時間帯に来てくれた方のみ割引や粗品を渡す。

道の駅、ホテル、レストランや阿蘇観光サイトなどに阿蘇の観光地やアクティビティの見所を纏めたMAPや簡単な資料を作成し置く。

阿蘇市専用のSNSで上記のようなお勧めする場所を動画でアップする。

時間帯をずらした体験や宿泊者限定プログラム、小規模・予約制の体験を増やすことで、特定スポットへの集中を緩和でき、見る観光から体験型へ転換し、阿蘇全体を面的に巡る仕組みづくりが有効だと考える。

外国人の意見を聞き入れて、体験型のツーリズムを考えた方がよい。外国人から見た阿蘇の魅力を再発見すべき。

バスツアーの開催

アクティビティは非常に魅力的だが、旅行者を分散させるには併せてカフェなど休憩できるスポットが必要だと感じる。



北外輪山E-MTBライド



阿蘇山上トレッキング

令和7年度事業を踏まえた継続課題

1 参加者の拡大

- 事業実施が遅れたため、アクティビティ体験が年末年始の繁忙期に加え、寒い時期の開催となり、結果的に参加者が少なかった。

令和8年度以降の方針

1 質の高いコンテンツの提供

- 本事業において洗い出した課題を改善し、更なる地域住民の分散型コンテンツへの関心度アップを目指す。

4. 対策の概要

- 山岳地形であることから渋滞が起きやすく、観光スポットも限られることから局所に人・車が集中しやすい構造。そのため、受入環境整備を行いつつ、場所や時間の分散化を図る
- 具体的には、駐車場混雑可視化や夜間店舗の充実化、草原を活用した滞在型コンテンツ造成などを実施する
- 滞在型コンテンツ造成により、経済波及効果の拡大も図り、地域の観光客受け入れ負担の軽減にもつなげる

エリアマップ



観光客の分散・平準化

取組み

①大観峰周辺の草原でのコンテンツ造成及びアクティビティ受付拠点整備

内容

- 地元消費の向上につながる草原での体験コンテンツを3種類造成することで、5大スポットへの観光客集中を分散し、収益の上げにくい自然資源型地域での持続可能な観光地域づくりを目指す

取組み

②夜間店舗の充実・非混雑エリアのコンテンツ磨き上げ

内容

- 内牧温泉は昼間の商店街に観光客が集中する。宿から夜間店舗への送客や、非混雑エリアにおける特産品の食べ歩きや飲食可能な拠点を充実させることで、時間と場所の分散化を図る

受入環境の整備・増強

取組み

③ICT等を活用した駐車場の混雑状況可視化等（阿蘇神社・阿蘇市）

内容

- AIカメラ分析等により駐車場の空き状況を見える化し、利用効率を向上するとともに、駐車場整備を行うことで、渋滞緩和を図る

取組み

④多言語モニター設置による観光施設の混雑状況の見える化

内容

- 外国語表記のインフォメーションモニターにより、待ち時間をリアルタイムに周知し、外国人観光客にもスムーズな案内を可能とすることで、混雑の解消を図る

取組み

⑤宿への荷物搬送・ツアー専用車導入

内容

- 荷物搬送を効率化するとともに、使っていない時間はツアー客の搬送を行うことで観光客の分散化も図る

取組み

⑥内牧商店街の歩行者天国化の実証

内容

- 車道の一部を歩行者天国にすることで観光客と車両の接触事故防止を図る

取組み

⑦バス停周辺の環境整備

内容

- バス停を改修することで、渋滞や安全面の課題を解消する



4. 対策の概要

- 阿蘇の重要な資源である草原や放牧馬・牛を保全するため、マナー啓発を実施
- 持続可能な観光の推進のためには、観光客・住民双方の満足する観光地を目指す必要がある。そのため、阿蘇の観光やビジョンに対する住民・事業者の理解を促進も図る

エリアマップ



調査・分析

取組み

⑧ AIカメラ設置による施設の利用者数及び駐車場の満空状況の計測

内容

- 駐車場の混雑状況についてリアルタイムに情報発信を行い、混雑軽減を図る
- 時間帯別の施設利用者データを可視化し、レジの稼働数や清掃タイミング、施設内動線の最適化を図る
- 崇城大学IOT・AIセンター並びにDXfromKUMAMOTOと連携することにより、AIカメラ画像分析からのマーケティング利用を行う

取組み

⑨ 将来的なEV自動運転導入に向けた調査・検討

内容

- 草千里駐車場の混雑による渋滞が発生しており、空いている古坊中駐車場への分散化が必要。草千里と古坊中駐車場間を環境に配慮したEVバスで繋ぐことで、古坊中駐車場利用を促進する

マナー啓発

取組み

⑩ 草原や放牧場でのマナー啓発のためのツール作成・配布

内容

- 観光客の増加により、草原への無断立ち入り、牛・馬に無断で触れるなどの事象が発生しており、草原踏み荒らしや口蹄疫発生の懸念がある
- 阿蘇の重要な資源である自然への理解を促進させ、自然に配慮した観光を推進するため、ガイドラインをわかりやすく伝え、草原への無断立ち入りや牛馬への接触等を抑制する

住民と協業した観光振興

取組み

⑪ 地域住民の体験会の実施

内容

- 阿蘇市の観光コンテンツを、住民や事業者等にも体験してもらい、その魅力を五感で感じてもらうことで、「自分ごと」として阿蘇市の魅力を捉え、おもてなしや観光地域づくりに取り組む機運を醸成する
- 併せて、双方向の観光地域づくりについての意見交換会を開催し、「住民・来訪者・環境」の三方良しの取組みを推進する

5-①. 主な取組み（詳細）

課題

- “5大観光スポット”で“草原を見るだけ”の観光となっており、場所や時間の集中が発生
- 地域への経済効果も限定的

取組み

草原でのコンテンツ造成及びアクティビティ受付拠点整備

- 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
- 実施主体：あそBe隊、梅木観光、阿蘇ネイチャーランド、日航観光社

事業内容

①：コンテンツ造成

- 大観峰以外でも楽しめる草原を活用したコンテンツ（以下、三種類）を造成する
 - E-MTBによるカルデラ草原ライドツアー
 - 北外輪山をフィールドした本格4輪バギーアドベンチャー
 - 引き馬乗馬ユニバーサルコンテンツ

②：アクティビティ受付拠点の整備

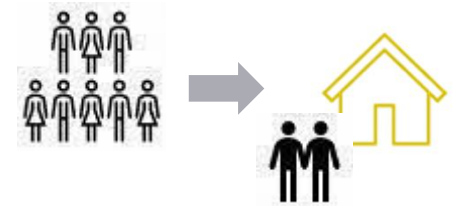
- 新たなコンテンツに誘導するための受付拠点を整備する

【目的】

- 人気スポット周辺に新たなコンテンツを造成することで、観光客の分散化を図る
- “見る”から“体験する”観光コンテンツとすることで、滞在時間の延長や経済効果の向上を図る

②：アクティビティ受付拠点

昼間に大観峰や草千里に集中する観光客を分散化



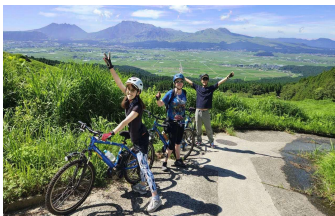
大観峰や草千里に集中する観光客をコンテンツに誘導するための拠点を整備



大観峰からの分散化



①：コンテンツ造成



E-MTBによるカルデラ草原ライドツアー



北外輪山をフィールドした本格4輪バギーアドベンチャー



引き馬乗馬ユニバーサルコンテンツ

5-①. 成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 阿蘇の草原コンテンツ及びアクセシビリティ受付拠点を新規に造成し、大観峰など人気スポットからの**分散を促せるコンテンツとして有効な手段となるか検証**

事業の成果／目標の検証結果

- 分散化への有効性を確認。令和7年度から、定番商品として販売する**
 - 3つの新たなコンテンツについて、**計225人が参加**し。大観峰などに集中する観光客の分散に有効となり得ることが確認できた
 - 満足度が高いこと、また**収益化の見通しが立った**ことから、**令和7年度から定番商品として販売する見込み**

成果詳細

■ 草原コンテンツ造成による場所の分散

- E-MTBライド体験以外は**当日予約でも参加することができ、大観峰に多いドライブ客等が気軽に参加できる体験機会**の創出となっている。
- コンテンツ参加を通し、景観だけではない**草原の価値についての理解**も深められている
- 収益確保の見通しも立った**ため、今後定番商品として継続させる

	E-MTBライド体験	バギー体験	引馬体験
人数	12回 34人	164人	89人
年齢	<ul style="list-style-type: none"> 20歳代～70歳代 外国人3割、日本人7割 	<ul style="list-style-type: none"> 30～40歳代の参加が多い 外国人1割、日本人9割 福岡3割、関東圏3割、熊本2割、その他 	<ul style="list-style-type: none"> ファミリー（5歳～30歳代）の参加が多い 外国人1割、日本人9割
単価	8,500円～	7,700円～	1,100円～
意見	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は高い。思ったよりやり甲斐・アドベンチャー感があった。 <u>野焼きや輪地切り等の意義について、アクティビティをしながら理解を深められた。</u> <u>草原を維持する人々の苦労や、昔カルデラが湖だったころの話</u>に関心が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 草原景観の中で楽しめるアクティビティとして、満足度は高い。 アクティビティ体験をしながら草原の話をするとう理解しやすい。 <u>草原の話は、特に40歳代以上に反響が</u>良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが喜んでおり、<u>ファミリー層</u>に好評 普段の目線より高くなり、非日常感を体感できる。 馬の対応（反応）が温かい（気質も体温も）

5-①. 成果及び今後に向けて

成果詳細



- これまで眺めるが中心だった阿蘇の草原の中で、様々なアクティビティを体験できるようになった

令和6年度の取組みから見えてきた課題

- 令和6年度の実証を踏まえ、草原コンテンツの観光客ニーズや属性を把握。商品価値は十分にあり、今後の本格実施の見込みが立った
- 大観峰等からの分散化及び実施事業者のビジネス安定のためには、利用者の拡大が大きな課題

1 ツアー客の取り込み

- 大型バスで来訪する旅行者については、予め行程が決まっているため、コンテンツに興味をもってもらっても参加いただけない
- 旅行前段階から、行程として組み込んでもらう必要がある

2 他集中スポットへの分散コンテンツの展開

- 本事業では、大観峰からの分散を見込んだコンテンツを造成。大観峰の取組を踏まえ、阿蘇駅、山上など他4集中スポットについても分散化の取組を拡大していく必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 利用者の拡大に向け、旅行会社との連携によるツアー客の取り込み、大観峰以外でのコンテンツ拡大を図る

1 旅行会社との連携によるツアーへの組み込み

- 北外輪山の大観峰周辺エリアで気軽に楽しめるアクティビティを旅行会社に紹介し、ツアーに組み込んでもらう
- 令和7年度の実施に向け、旅行会社との協議を開始している

2 子どもやお年寄りも楽しめるコンテンツの造成

- 阿蘇駅ではE-MTBライド、阿蘇山上ではグリーンスローモビリティによる草原ライドの造成に取り組む
- 体力のない人でも楽しめるコンテンツの要望があったことから、グリーンスローモビリティによる草原ライドを導入する

5-②. 主な取組み（詳細）

課題

持続可能な観光地づくりに向け、住民の巻き込みや阿蘇観光に対する理解・機運醸成を図る必要がある

取組み

地域住民の体験会の実施

- ・ 実施期間：体験会（令和6年10月～令和7年2月）、意見交換会（令和6年10月、令和7年2月）
- ・ 実施主体：阿蘇カルデラツーリズム推進協議会

事業内容

■ 住民体験会の実施

- ・ 阿蘇市の観光コンテンツを、宿泊事業者や観光事業者等、観光客と直接接点がある地域の方にも体験してもらい、その魅力を五感で感じてもらう
 - 体験の実施（4種類）
 - 体験したコンテンツ及び阿蘇市オーバーツーリズムに関するアンケート調査
 - 地域住民向けサステナブル講習会の開催

【目的】

- ・ 持続可能な観光地づくりを目指すため、地域の方に対し、**阿蘇の魅力の理解や観光客からの視点を育成**し、阿蘇観光を「自分ごと」として捉え、おもてなしや観光地域づくりに取り組む機運醸成する

【背景】

- ・ 地域の方が阿蘇の魅力について自ら観光客に伝えることは、知られざる魅力発信や地域と観光客の交流や繋がりの創出、地域と観光客の相互理解の促進にもつながる
- ・ しかし、**地元の方は地元を観光しないため、既知の人気スポット以外の魅力が伝わらず、結果として人気スポットに観光客が集中しやすい**
- ・ 体験会・意見交換会を開催することで、阿蘇の魅力への理解や観光客からの視点を育成し「住民・来訪者・環境」の三方良しの取組みを推進する

意見交換会・アンケート調査

- ・ 体験会、アクティビティに対するアンケート、オーバーツーリズムに関するアンケート、講習会を実施
- ・ 阿蘇の魅力理解・観光客視点の育成、アクティビティのモニターを含めた地域協議の新しいスタイル



体験会で魅力
を理解



観光客に魅力を伝える

おもてなし・観光客視点も
理解した観光地づくり

阿蘇への理解
リピーター



5-②. 成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 阿蘇の草原コンテンツに対する**住民の満足度**や、**地域の魅力・価値を来訪者に伝える役割を担うこと**についての意向などを調査し、**体験会の有効性を検証**する
- その他分散化や観光地域づくりの課題を調査し、対策を検討する

事業の成果／目標の検証結果

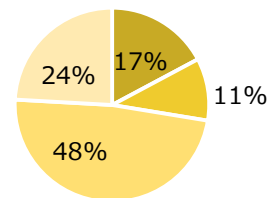
- 実体験に基づき、阿蘇の魅力を自ら発信していける人材の育成の第一歩を踏み出すことができた
 - ▶ **計76人**が参加
 - ▶ 体験会の満足度（目標80%以上） **約8割**
 - ▶ 観光客への紹介意向（目標80%以上） **約9割**

成果詳細

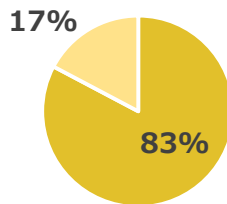
体験会の概要

実施期間：令和6年11月～12月
 参加者数：76人
 内容：4つの草原コンテンツの体験
 回数：24回

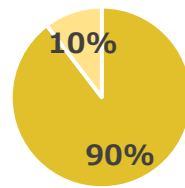
参加者年齢



満足度



観光客への紹介意向



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代
 ■ 80%以上 ■ 80%未満

- ✓ **地域の魅力・価値を来訪者に伝えることができる人材を育成**するという目的から、参加者の大半は、普段から観光客との接点がある**観光事業者、宿泊事業者**
- ✓ **体験会の満足度：80%以上 約8割**
- ✓ **観光客への紹介意向：80%以上 約9割**

アンケート結果・分析

- ✓ **地域に住みながらも阿蘇を知らない人が多く、阿蘇の魅力に感動し、観光客にも紹介するとの意見が多かった**

- 地域に暮らしていても知らない情報、埋もれてしまっているような情報を、体験しながら知り、学ぶことが大変素晴らしかった
- 馬が愛情を持って飼育・調教されており、穏やかで賢くて感動した
- 阿蘇の風景に感動しながらの最高の体験。たくさんの方に感動を味わっていただきたい
- 訪日客だけでなく、特別な旅(高単価な旅)を希望の方へアピールする発信ができればと思う

- ✓ **一方、体験コンテンツの価格については、地域が適性と思う額と実際の販売額に乖離があった**

- バラグライダー、E-MTB、アウトドアダイニングの3つは実際の価格よりも、地元の方の想定価格が2割程度低かった
- 乗馬については、想定価格のほうが高い特徴が見られた。また、コメントについても乗馬に対する評価が高かった。

→ 価格に見合った付加価値の高いコンテンツへの改善とともに、地元の人には草原の存在が当たり前となっていることも価格に表れていると考えられ、阿蘇の魅力や価値を引き続き伝えていく必要

5-②. 成果及び今後に向けて

成果詳細



- 意見交換会、協議会だけでなく、実際に阿蘇の魅力を経験する機会も設けることで、持続的な観光の推進を自分ごととして捉えやすくなる
- 観光事業者や宿泊事業者は、阿蘇を観光したことがない方も多く、観光客視点から阿蘇を考える機会ともなった

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- 阿蘇の人が阿蘇を知らないということは従前からの課題であったが、本事業を機に、実体験に基づき、阿蘇の魅力を自ら発信していける人材の育成の第一歩を踏み出すことができた
- 多くの人に満足いただくことができたが、体験者数が限られていることが課題である

参加者の拡大

- 計76名に参加いただき一定の成果が得られたが、阿蘇市の人口や事業者数を踏まえると、参加者が限定的
- 地域全体で、阿蘇の魅力を伝えていく機運を醸成するには、参加者のさらなる拡大が必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 阿蘇の魅力や価値を来訪者に伝えることができる地元人材を増やしていくため、一般住民向けの体験会の開催など、参加者を拡大していく

一般住民向けの体験会の開催

- 今回は観光客との接点の多い観光事業者・宿泊事業者向けに開催したが、阿蘇への理解や誇りの醸成、将来の観光人材の育成に向け、主婦や子どもなど多様な方々への機会提供も提供する

5-③. 主な取組（詳細）

課題

園内の混雑状況がわからない、外国人観光客への説明時間を要することにより、発券所付近に人混みが発生

取組み

多言語モニター設置による観光施設の混雑状況の見える化

- 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
- 実施主体：阿蘇熊牧場

事業内容

■ 入園前の発券機付近への多言語モニター設置

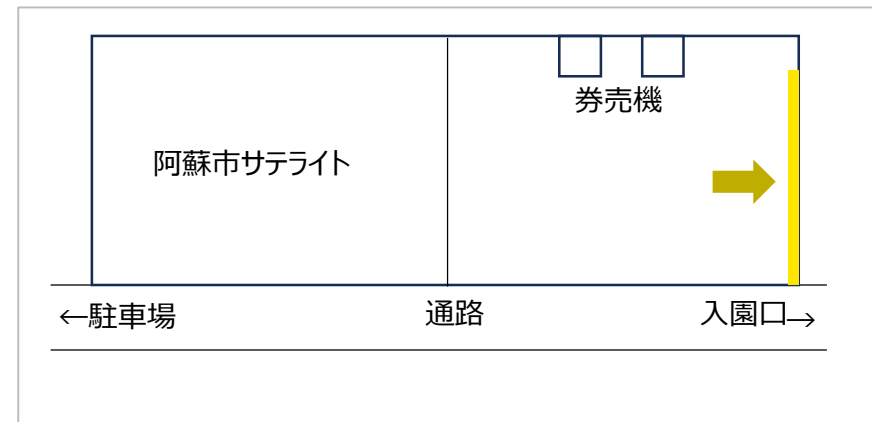
- 発券機付近を中心に、リアルタイムの予約状況を確認できるモニターを設置
- 外国人向けに3～4か国語（日本語・英語・中国語(繁体・簡体)・韓国語にて表記) 対応の案内を実施

【目的】

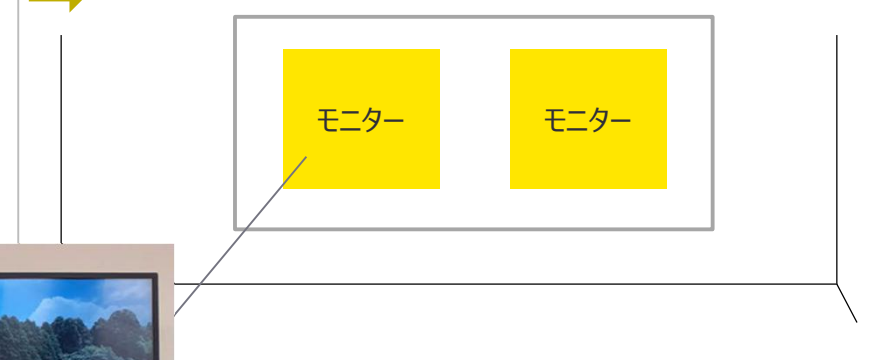
- 券売機付近に園内施設の受付状況を確認できるモニターを設置することで、入口での受付状況の問い合わせ対応に関する混雑や返金トラブルを解消する

【背景】

- 園内の人気アクティビティこぐまのふれあいやヘリコプター遊覧について、これまで受付状況が見える化されておらず、先着順であった
- そのため、入園券購入後窓口に並んで空き状況を確認する観光客が多く、待ち時間や入園口の混雑、空きがないことによる返金トラブルが発生していた



から見た図



入園口前にモニターを設置



5-③. 成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 受付状況の見える化による入園口混雑及び返金トラブルの解消

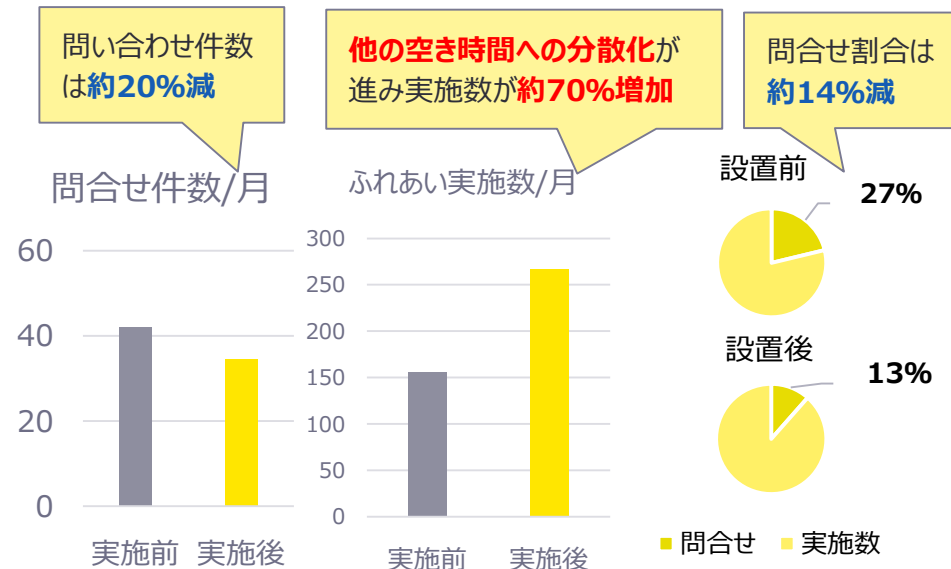
事業の成果／目標の検証結果

- 問い合わせ件数減による混雑緩和、返金トラブルの減少
 - 問い合わせ件数 こぐまのふれあい **約253件→約138件**
 - ヘリコプター遊覧体験 **約145件→約49件**
 - キャンセル件数 ヘリコプター遊覧体験 **8件→5件**
- ※実施前：5～10月 実施後：11～2月の実績

成果詳細

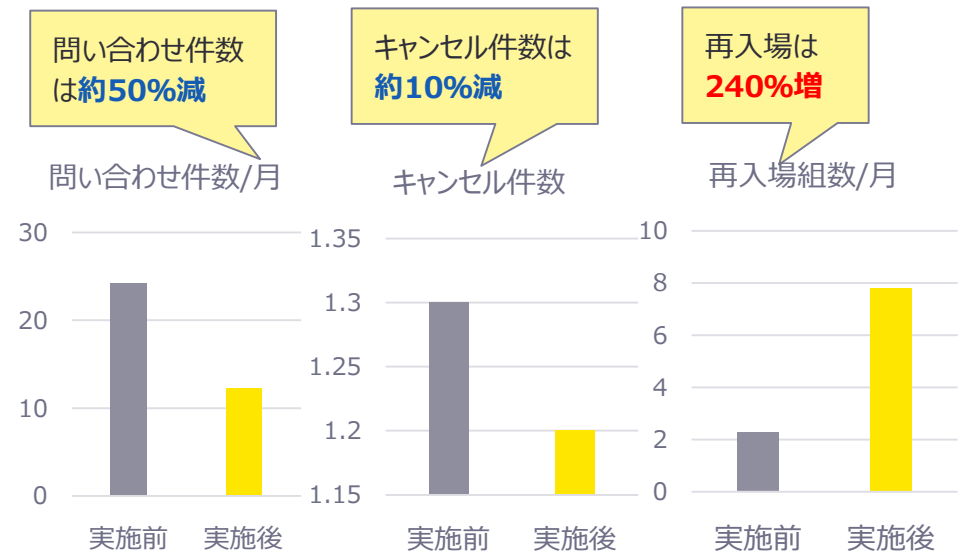
こぐまのふれあい

- ✓ 予約状況の見える化により、問い合わせ件数の減少に伴う混雑解消、他の空き時間への分散化への効果が見られた
 - 問い合わせ件数：約42.1件/月→約34.5件/月
 - ふれあい実施数：約156件/月→約267件/月



ヘリコプター遊覧体験

- ✓ 混雑解消などに一定以上の効果が出るとともに、受付状況が見える化されたことで、混んでいる時間は周辺の観光等を楽しみ、モニターで状況を見て再入場してくる観光客が増えたと想定される
 - 問い合わせ件数：24.2件/月→12.3件/月
 - キャンセル件数：1.3件/月→1.2件/月
 - 再入場組数：2.3件/月→7.8件/月



5-③. 成果及び今後に向けて

令和6年度取り組みから見えてきた課題

- モニター設置後、口頭での問い合わせは格段に減少しているが、新たな滞留発生などへの対応が課題となっている

1 入園口付近の滞留への対応

- モニターで満席及び天候不良による受入不可を確認した後に、その後の観光コースをその場でスマホ等で探される方が多く見受けられる
- そのため、入園口付近に一定時間滞留が発生し、混雑が発生する可能性がある

2

ごみ分別やトイレ利用方法の改善

- 外国人観光客を始めとした観光客の急増により、トイレの利用やごみ分別のマナー悪化が目立つようになっている
- 混雑対応と併せて、マナー問題への対応も必要

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- モニター設置後、口頭での問い合わせは格段に減少しているが、新たな滞留発生などへの対応が課題となっている

1

受入れ状況の事前発信

- 観光客が来園前に受入状況を把握が可能なツールを検討
- 人員も限られているため、スタッフによるHPやSNS発信ではなく、受入状況をリアルタイムでの周知方法を検討する

2

マナー啓発の強化

- トイレ利用やごみ分別などのマナー啓発を実施
- 外国語観光客が急増していることから、多言語による案内を実施する

現状について

- 令和7年度は、地域一体型として事業を実施。